

令和元年度第2回紋別市総合教育会議録

- 1 日 時 令和2年3月26日(木) 午後3時00分～3時42分
- 2 場 所 紋別市役所 市長応接室
- 3 出席者
- | | |
|------------------|------|
| 紋別市長 | 宮川良一 |
| 紋別市教育委員会教育長 | 堀籠康行 |
| 紋別市教育委員会教育長職務代理者 | 小林正男 |
| 紋別市教育委員会委員 | 上林善證 |
| 紋別市教育委員会委員 | 木山順子 |
| 紋別市教育委員会委員 | 渡邊孝博 |
- 4 構成員以外の出席者
- | | |
|------|------|
| 総務部長 | 牧野昌教 |
|------|------|
- 5 事務局関係
- | | |
|-----------|------|
| 学務課長 | 浜屋武志 |
| 学務課参事 | 茂木洋人 |
| 学務課指導主事 | 綾部雅一 |
| 学校給食センター長 | 斉藤剛 |
| 生涯学習課長 | 山本晃男 |
| スポーツ振興課長 | 田島慎二 |
| 博物館長兼図書館長 | 志子田悟 |
| 学務課庶務係長 | 米田晃 |
- 6 協議内容 (1)「令和2年度 紋別市学習指導の充実に向けて」について

令和元年度 第2回紋別市総合教育会議

午後3時00分開会

○宮川市長

定刻になりましたので、令和元年度第1回紋別市総合教育会議を開催いたします。進行につきましては、議長の私が務めさせていただきます。

それでは、次第に基づいて、本日の協議に入らせていただきます。

協議事項（1）「令和2年度 紋別市学習指導の充実に向けて」について、事務局から説明をお願いします。

○綾部指導主事

それでは、協議事項（1）「令和2年度 紋別市学習指導の充実に向けて」について、説明をさせていただきます。

平成31年4月に行われた全国学力・学習状況調査結果は、「広報もんべつ」やその他報道等でお知らせをしたところです。この冊子は、小学校、中学校別、教科別、問題別の詳細な分析で各小学校に配布し、次年度からの学習指導や教育課程編成に活かすことができるよう市教委でまとめたものとなっております。冊子の2ページをご覧ください。本年度、この調査が大きく変わったところについて、ご説明させていただきます。3調査の内容（1）教科に関する調査ですが、知識2のA問題、活用のB問題という区別がこれまでありましたが、その区別が無くなり一体的に問う問題となりました。このことで、子どもにどのような資質能力を身に付けさせるべきなのか、新学習指導要領の趣旨が具体的なメッセージとして調査問題に反映されたということになっております。また、中学校のみですが、英語が調査に追加されました。続いて紋別市全体の結果ですが、小学校が4ページから記載されております。それから、中学校が23ページからそれぞれ記載されております。簡単に説明させていただきます。まず、小中ともに国語、算数、それぞれが8から10ポイント程度全国平均を下回っているといった状況になっております。それから各教科、領域ごとの正答率を表すグラフにもあるとおり、領域別にみても全体的に下回っている傾向となっております。また、中学校の英語の聞き取りでは、一部の問題が全国平均を超えるということで、聞き取りの力については、比較的高い傾向が見られます。また、小学校19ページ、中学校は39ページからになりますが、生徒質問紙の結果ですが、メディア視聴時間が長く、家庭学習時間が短いという傾向が見られております。記載されている問題がちょっと小さくて見づらいので、別紙にて調査問題を印刷しております。小学校6年生算数の問題用紙になります。先ほどもお話したとおり、このような問題に、

子どもにどのような力を身に付けさせていけばいいのかといったメッセージが込められているということで、この問題を通して、子どもにどんな力を身に付けさせなければならないのか、それぞれ感じられたことがあるのではないかと思います。これに基づいて、市の状況を少し説明させていただきたいとお思います。冊子に戻りまして、17ページをご覧くださいと思います。問題別の傾向ということで、3点挙げます。1点目ですが、17ページの下にありますとおり、長い問題文を読み解かなければならないという読解力、それから2つ目に、18ページ上のポイントに出していますとおり、求め方を言葉や数で書く表現力、それから3つ目に、17ページに戻ってしまいますが、問題を解くのに必要な情報を選ぶことが必要になります。こういった情報選択能力、3つのポイントを今挙げましたが、この問題においては、この3つのポイントにおいて課題があるのではないかというふうに分析したところです。この傾向は、算数だけではなく、他の国語、英語、それから小学校、中学校の両方に共通する傾向として、全体的にみられるものであります。この冊子に関する説明は、以上にさせていただきますが、この後、このような子どもたちに学力の課題を乗り越えるために、紋別市全体として、どのようなことに取り組んで行くべきか、ご意見をいただければというふうに考えております。どうぞよろしくお願ひします。

○宮川市長

それでは、事務局から説明がありました。ご意見、ご質問があれば、お伺いいたしたいと思ひます。

○小林委員

今、学校の授業では、このようなケースはありますでしょうか。

○綾部指導主事

こういった読解力を必要とするものですか、ただ単に答えをぽんと出せばいいというのは、いろいろ考えて答えるという問題については、もう教科書にもそのような傾向が表れておりまして、授業の中でもそういった授業は多く行われております。

○小林委員

半分以下の正解率ですが、普通、熟読すればほとんど分かるような問題だと思います。多分正解できないのは、読んでいないのではと。途中であきらめるとか。他にも問題があるから、次にいってしまう。

○綾部指導主事

調査結果の分析でもグラフとして出てますが、特に後半の問題に無回答が多いということで、やはり問題を読み切れていないことは、やはり見られると思います。

○宮川市長

読む速度とか、基本は読む速さ。次に読解力ですよ。

○上林委員

忍耐力も必要かもしれませんね。私は、昨年、南丘小学校が図書館事業を大変熱心にやっていて、研修にも先生達がたくさん集まってやっていたのですが、そこに参加させていただきました。今の子どもたちは、何かを調べる時に、スマートフォンで、直ぐ答えが出てしまう。そこで図書館司書が先生になって、子ども達に本を調べるということのやり方を教えていました。たくさんの本の中から自分の求めるものを、まずは分類とか、種類とか、そういったものを自分で考えながら選んで調べるというやり方で、いわゆる時代とは逆行している形ですけれども、やはり答えを直ぐ求めるのでは無くて、先ほど言ったように自分で考えて探して見つけてという、それは大切なことかなと思っていました。幸いにして、今年から図書館司書が増員されて、先ほども教育委員会の中でも出ておりましたけれども、図書館、学校図書蔵書、いろいろ考えているというので、またその方向で進めていくのも良いのかなとずっと考えておりました。

○宮川市長

そのほかありますか。

○木山委員

子どもたちが、やはり文章を読むことに楽しみを覚えるということが、大事だと思っています。文章を読むのは、2年生も3年生もあっていいと思いますが、読めば楽しいという感覚を早めに育てていく必要があって、そのことが最終的に長文を読めるようになり、黙読を速くするように繋がっていくと思っています。そこを、学校でも、家に帰っても、本を手にとって読む。図書館から本を借りる。そういうことが、日常化されることが、もう少し上手にできないかなというのが1点。それから、こういった算数の問題を解くときに、最終的にやってみれば答えが出るというように、算数と戦う訳ではありませんが、その気持ちを持ってほしいなと思います。多分、最後まで行かない子というのは、途中で、こんなこと面倒くさいと思いがちな子が多いのではないかと思います。何とか算数を解いて

いくときにクリアしていく、ゲームと同じだなと思ってくれるような楽しみを仕掛けていくというか、そういうことの積み重ねで、充実感や達成感のようなものの積み重ねをしていかないと、こういう問題で戦えないぞと、戦う必要はないのですが、楽しめないぞと。面白かったじゃないですか。算数って解けば。間違っただけは腹が立つけど、解いていけば楽しい。その楽しみを味わう手立てをいっぱい先生が取っているのですが、楽しむ子どもたちをどんどん増やしていく必要がある。そうしないと苦しいのではないですか。楽しいということを早めに、上手にできないものですかね。いつも思っているのですが。絶対面白いですよ。これを解いたら。

○宮川市長

分かってきたら楽しいでしょうね。しかも興味のある書類だったら読みますが、そうでなかったら忍耐力が必要で、直ぐに眠くなってしまいますよね。やはり興味がないと、つらいですよね。

○木山委員

やはり子どもたちには、つらさより楽しみの方をなんとか早めにとっております。

○宮川市長

特に本も、その子に合って、その子が読んで楽しかったら、1回でも思えば、また次となっていく。そのきっかけが大切ですよ。

○渡邊委員

今デジタルであふれていますが、直接的ではないですか。映像で直接入ってきてしまうので、それをアナログに戻す。文面、文字を理解するというようにシフトしているので、頭をそちらに向けさせるように先生達に指導してもらおうとか、小説や本を読み慣れていると分かりますが、頭の中でイメージすると思うのですよね。今の子どもたちってというのは、直接的に得られる情報が多すぎて、そちらに頭が慣れている。自分で文章を読んで頭で描くというのが、すごく苦手になっているのかなという気がします。その文書を理解することによって、いろいろなストーリーが頭の中を流れていって、理解をする。これは今始まったばかりなので、それを積み重ねることによって、いずれ説明力になっていく。何でもやり始めは大変だと思いますが、先生達も大変だと思いますし、子どもたちもエネルギーをたくさん使っていると思います。でも、今のうちにそれに慣れておくと。それが将来的に教科書の理解力もそうですが、書物などにも免疫ができてくる。今の子どもたちは、文字がすごく苦手なのではという気がするのですよね。文字に

対するアレルギーではないですけど、苦手という意識をどうやってこなせるかという。一番根本のところを壊すことによって、文字の読解力というものを。今、こういうふうに始まって、いずれそういうふうに変わっていくと思うのですが。今の子どもたちは昔と違って、教室がすごく静かになった。子どもたちが黒板の方に向いてきていると思う。一時前よりも読解力を必要だとしても、子どもたちが授業に集中できるようになってきているので、それが上手に結びついてきているのではという感じがします。今までの全国レベル、地域のレベル、これぐらい差があるということが、今まで社会的に共有されていなかったと思います。それを共有することによって、多分、地域的なことや両親などが、今の紋別市の現状を良く分かっているの、学校だけでは駄目だし、子どもたちだけ駄目なので、やはり社会全体で取り組んでいくことである程度のレベルになるとと思います。それが構築始めた段階だと思います。結果が出るのに数年かかるとは思いますけど、取組としてはすごく良いといたしますか、まだ始まりですが、結果がどうなるか分かりませんが、成果は出てくるとは思います。文字だらけのところ、いかに学ばせることができるか。

○宮川市長

こんなに難しい日本語を、勉強させるのかと思いますよね。

○渡邊委員

本当に日本語は難しいですね。例えば、数を数えるにも1本(ぽん)、2本(ほん)、3本(ぼん)と違いますよね。英語なら、ワン、ツー、スリーで済むのに。

○宮川市長

このハンデは、すごいなとも思いますが。さらに難しいお経を読んでいる人がここにいますけど。

○上林委員

英語のヒアリングもそうですが、きちんと手当をするとそれなりに成果は出てくるので。

○宮川市長

ユーチューブであればずっと見えていますよね。何が楽しいのか。

○渡邊委員

その影響があって、今テレビ離れがすごく進んできています。あとは、情報を選ぶ。

○宮川市長

自分の好きな情報を、好きなだけ見て。

○渡邊委員

今は未就学児でもユーチューブを見ているのが現状です。

○堀籠教育長

おそらく英語の聞き取りが良いというのは、反射的な能力はそういったところで育てられていると思います。ただ、それがどういった意味を持っているのか、というところは、例えば、幼児の頃から、お父さんやお母さんが本を読んでくれるので、お父さんの表情や絵と声の調子から全体的にどのような意味合いを認知していくのかもしれませんが、そうでなくてもテレビなどで一方的に与えられていだけなので、実際コミュニケーション取るときには、子どもの反応を見ながらやっているところはあるので、そういったところが少ないと、一方的な認知ですとか、ストレートな文字も文字面だけで、中身がどういった意味を持っているかというところは、家族数が少なくなっているところで、不足しているのがあると思います。

○渡邊委員

双方向でないというか。いくら勉強だって言っても、押しつけではないですか。でも授業は双方向ですよ。その違いはあるのではないのでしょうか。

○宮川市長

よく日本人はスピーチが苦手と聞きますが、そういった部分については、現在教育課程の中ではどうなっているのでしょうか。

○綾部指導主事

今、ちょうど出てきたのが読解力、いわゆるインプットという部分だとすると、やはり自分の考えを表現したり、書いたり、話したりということは、アウトプットということになると思いますが、教育現場でも少しずつ両方を1時間の授業の中に、しっかり取り入れていこうという動きはあります。そのことで両面から理解を深めたり、表現力を高めていったりとういような方向性は少しずつ見えてきておりますし、授業改善も進んできているところですが、それをもっともっと広げる必要があると思っております。

○堀籠教育長

北方圏国際シンポジウムの時に、中学生が発表するのですが、ご存じでしょうか。私たちの子ども時代よりもずっと、話すテクニックは学校で習っているのはあると思いますが、人の話を聞いて質問を返さなければならないことを臆せずにとんどんやっていくなど、そういったところを学校で習って付いている能力だなと感じるところはあります。

○綾部指導主事

実際この調査の問題の回答傾向でいきますと、一つの決まり切った答えを書く問題ばかりでなくて、自分の考えを書きなさいなど、そういった決まった答えではない答えを書くという問題においては、ちょっと低い傾向にありますので、書くということに関しては少し課題があると思います。

○上林委員

自分の意見を書くということですね。そういう意味では、自分の意見を持たなければならないということですね。

○堀籠教育長

北方圏国際シンポジウムの発表の時も、自分の意見を持っていることを、どこかで聞いたことがある意見を言うことを、歴然と違いを感じる。自分の経験などに引き寄せて話す子どもたちは、やはり、素晴らしい発表だと思いますが、どこかで聞いたことがあるような意見を言う子もいて、その差が難しいと思います。

○宮川市長

女の子の方が、元気と言いますか、積極的で、発言もしっかりしている。そういった傾向はずっとありますか。どうでしょうか。どの子も元気になってきているのでしょうか。

○渡邊委員

確かに、そうかもしれませんね。女の子の方が、組み立て方が上手なのでしょうね。自分は、インターンシップで子どもたちを預かった時に、感想文のような報告書をいただいておりますが、そういった部分では、女の子の方が文面は長けているような気がします。自分の思っていることを付け加える。男の子はやったことを書いて終わりという傾向があります。女の子に関しては、思っている思惑が入り込んでいるので、その辺は違うかなという気がします。

○宮川市長

反抗期の年齢は変わってきてますでしょうか。

○綾部指導主事

変わってきているとは感じないですが、たまに反抗期がないという子がいます。

○上林委員

それが良いことなのか、悪いことなのか分かりませんが。

○渡邊委員

自分は、親のことをうるさいと思っていたので。

○上林委員

反抗期は、逆に個に目覚めるといふことですね。

○堀籠教育長

親から離れるという意味では、間違いないですから。

○木山委員

何事も腹が立つ雰囲気の子もいましたけど、減ってきているのでしょうか。

○綾部指導主事

良く聞く話としては、反抗期は、先ほど個の目覚めというのがありましたが、脳の爆発だというような話もあって、それを乗り越えることで、大人になっていくプロセスということで、それが無いということは、逆に、正常な発達がちょっと出来ないのではという話もありますので、反抗期が無かったというようなことはあまり。

○宮川市長

人の成長の段階で、あると思いますが。

○堀籠教育長

そういったことは、認知の偏りがそういったことをさせている場合があります。そのまま耳や目から入っているものが、他の人と同じようになっているかどうかというところが。疾患でなくても、細かく他の人の声を聞いたら自分の悪口を言っているような気がするというのは、そこには偏りか何かあるところがあって、そこで勉強が分からなくなるようなことがあるので、そういったところの偏りも理解しながら学校を進めていかなければならないと思っております。

○堀籠教育長

一つよろしいでしょうか。今回の学力についてということで、議題に上げていただいたのですが、指導主事からの説明でお分かりかと思いますが、現在の学力テストの問題は、本当に生きる力といいますか、こういった問題を解くというよりは、社会に出たら必要だよといったところの問題が出ているというところで、こういったことが、これから生きていく子どもたちに必要だということがあるので、学力偏重といった批判が出ますけれども、社会で生きていく子どもたちのために、学力を付けさせなければならない。こういった意味の学力を付けさせなければならないと思います。学力の高い地域について、昔は低かったけど、高くなった地域がありまして、秋田県は非常に学力が高いのですが、昭和時代にやった学力テストでは、底辺の県でありました。北海道もそうですけど、低くて高くなっていたところがあって、実は、こうなったのは、地域が学力に対する関心が伸びてきたとなると、学力が伸びてくる。もちろん批判があって、学校や教育委員会が何をしているのだという批判もありつつ、そういった地域の方が、そういうような関心を抱いてくれることで変わっていくというのがあります。一番危ないのは、無関心といったことがあるので、こういった総合教育会議で、ある程度の時間を、皆様とお話して、子どもたちの学力について考えてもらうという形で、紋別市民の皆様にも、そういったところを考えていただくということが、ちょっと話題にさせていただくことが、学力に対して非常に影響があるということがありますので、今後ともそういったところで続けさせていただければと思っております。

○宮川市長

そのほか、何かありますか。

コロナウイルスで、学校が長期の臨時休業となって、この3学期の勉強の遅れといいですか、消化しきれない部分というのは、今後、どのような対応になるのでしょうか。

○綾部指導主事

学校種が変わる時には、小学校から中学校へその部分をしっかり引き継いで、中学校で補充するといった対応となります。

○堀籠教育長

今回の臨時休業に伴って、子どもたちの学習権の補償のためにも、今回予算を付けていただいたのですが、例えば子どもに一端末など。他の国は、家庭学習にインターネットを使用しているので、そのような問題は無いようですが、そういったところをやっていきたいと考えております。

○宮川市長

それでは、よろしいでしょうか。

今回いただきましたご意見等を今後の施策の参考にさせていただきたいと思
います。

それでは、協議事項の（１）「令和２年度 紋別市学習指導の充実に向けて」
について協議を終わらせていただきます。

他に事務局の方から何かありますか。

○浜屋学務課長

ありません。

○宮川市長

それでは、以上をもちまして令和元年度第２回紋別市総合教育会議を終了いた
します。お疲れ様でした。

午後 3 時 4 6 分終了